

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム まぶる「いろは館」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000146		
法人名	有限会社 へるぱーはうす		
事業所名	グループホーム まぶる「いろは館」		
所在地	〒028-1352 岩手県下閉伊郡山田町飯岡6-14-1		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様、一人ひとりの思いやペースに合わせた生活への支援を行っています。
また、コロナ禍で外出・交流を自粛する中で、施設内で入居者様と季節感を取り入れた装飾作りや掲示を行ったり、様々な年間行事を通じて、入居者様・職員共に楽しく生活しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開所2年目の新しいグループホームであり、新たに造成された海の見える高台に立地している。事業所への坂道は沿道に季節の花が見られる散歩道となっていて、利用者の散歩時には住民と挨拶を交わし、地域との交流を進めている。運営にあたっては、運営推進会議、利用者アンケート、家族アンケート、職員アンケートなどによる意見や提案を活用し、地域密着型サービス事業所として、利用者が尊厳を保ちながら安心して暮らせるよう、理念の実践に努めている。また、事業所内の研修会の開催、外部の研修会への参加、実務者研修への職員の派遣など、職員の研修を積極的に実施しているほか、職員はお互いに得意なことを教え合っており、知識と技術のレベルアップに努めて、より良い介護サービスの提供に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念の唱和を行い、豊かないろは(知識)で日々の生活をまぶる(守り)ケアに努めている。	開設時に管理者・職員が話し合って定めた理念を毎日、朝礼等で唱和し、日々の介護に入る拠り所としている。職員は、知識と経験を互いに教え合いながら、利用者が安心して過ごせるように、一人一人に対応した柔軟な介護サービスを提供し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策も考慮し、地域との交流はなかった。敷地内に同級生がいる入所者がテラスで話したり、入居者・職員のお孫さん達が夏祭りに来たりと交流した。	コロナ禍により、地域との交流は控えているが、利用者の散歩時に住民と挨拶を交わしたり、防災訓練時に敷地の地主やアパート住民も参加したり、事業所の夏祭りに利用者の孫などが参加したりしている。前回の外部評価で期待されていた、町内会に参加するなどして地域との交流を積極的に進めることについては、目標達成計画を立てて取り組むこととしていたが、コロナ禍が続いているため、まだ取り組めていない。	事業所の基盤を築いていくためにも、前回の外部評価と同様に、町内会に参加するなど、コロナ後は地域との交流をより積極的に進めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の見学・説明・問い合わせがあった際には、事業所の実践を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策を講じて、書面での実施となったこともあるが、入居者の状況、ホームの取り組み状況を広報誌を通じて報告している。開催時には、質問や意見も頂いている。	コロナ禍により、2ヵ月ごとに書面開催を行っていたが、11月には参集しての会議を開催している。会議では、事業所の利用状況、行事や研修状況などを報告し、災害避難訓練、入浴、通院、食事などについての意見等が出ている。書面開催の際にも意見等をもらえるように、新たに、質問・意見用紙を同封する工夫を行なっている。前回の外部評価で期待されていた、会議のメンバーに町内会の代表者なども加えることについては、目標達成計画を立てて取り組めていない。	地域の理解と支援を得るためにも、前回の外部評価と同様に、町内会代表者などの参加も検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加して頂き、事業所の状況を理解して頂いている。町で行われる会議・研修に参加し、情報交換や電話や出向いての相談事や意見を頂く等協力関係が出来ている。	窓口の山田町介護保険課と連絡を取っているほか、運営推進会議に町直営の地域包括支援センターの職員が参加し、各種情報の提供や助言を得ている。また、2ヵ月ごとに開催される町主催の地域包括ケア会議へ管理者等が参加したり、認知症、感染症、独居暮らしなどの研修会に職員を派遣し、連携を図るように努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会を始め、職員一人ひとりがケアに対して意識を持って取り組んでいる。感染症状況を踏まえ、玄関の施錠を行う事で感染経路を遮断している。	身体拘束廃止に関する指針とマニュアルを整備し、身体拘束をしない利用者支援に努めている。運営推進会議と併せて身体拘束廃止に関する委員会を開催し、会議の内容を職員に周知している。また、勉強会を開催したり、職員の身体拘束意識をチェックしたりして、スピーチロックを含めた身体拘束をしない対応を常に確認している。身体拘束の事例はない。転倒予防のため、夜間には感知センサーを使用している利用者が一人いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会や意識チェックを用いて、学ぶ機会や再認識を行い職員の意識付けに重視している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もあり、学べる機会もある。必要時には、関係者と連絡を取り合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者・家族と不安や疑問等を話し合いを行っている。必要書類の説明と行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日々の会話やモニタリングで意見や要望を取り入れている。家族には面会時や電話連絡で意見や要望・意向の確認をし、意見・要望はミーティングや申し送りで伝え、ケアやプランの見直しに反映させている。	利用者の意見や要望は、日々の会話の中で把握するように努め、趣味活動への支援、自宅への外出支援、誕生会での酒類提供などに反映させている。家族の意見や要望は、面会時や電話連絡の際に問いかけたり、毎年アンケートを実施して把握するよう努め、それらを運営に反映させている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員、個々の相談や意見を聞いたり、朝の申し送り・ミーティングでの意見交換を行い業務の見直しに反映させている。	日々の業務の中で職員の声を聞いているほか、毎日の引継ぎ時や月1回のミーティングでは、意見交換を行なって、適切な個別ケアにつなげている。また、職員アンケートや個人面談によっても意見や提案を受け、行事の開催、用品の確保、産休者への対応、資格取得の支援などの職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話や身体面等、個人の状況を含め、勤務状況の把握、見直しを行い、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的勉強会や法人外での研修参加を行い、立場や経験の段階に応じた学びの機会を得て、職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内や協会の研修・会議に参加し、意見交換や連携を図り、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中で、不安や要望を傾聴し、安心や信頼が得られるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に耳を傾け、面会・電話連絡を通じて、関係作りに努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時・入居時の、本人・家族の実情や心身面の状況も含め、見極めたサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意とする事を活かし、作業等で役割を構築し、一緒に行う事で支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会や通院報告等連絡を取り合い、本人の状況・意向を伝え、共に支えあう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、外出・面会等の制限はあったが、休息時の面会や手紙でのやり取りで繋がりを大切にしている。	コロナ禍により馴染みの人との面会を控えているが、感染状況が少し収まった時期に家族等との面会を実施している。また、家族や孫、姪との手紙のやり取り、年賀状の交換を支援しているほか、病院への通院時に知人と再会するなど、以前の関係を大切にしている。以前から利用していた理美容師の訪問施術を受けている利用者もいる。	新型コロナウイルス感染防止などのため人との接触を控えざるをえない状況の中でも、遠方の家族などとの関係が継続できるよう、新たに導入した情報機器を活用してリモート面会などの支援を検討することを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	弱視や難聴の方には職員が間に入り、コミュニケーションを図れる様に努めている。また、入所者男性5名女性4名の関係性にも配慮し席順も考え対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所からまだ退去者はいないが、家族や地域での介護に困っている人の相談窓口になったり、次の支援に繋がれる様、取り組んでいきたい。		

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にモニタリングやアセスメントを実施している。本人の希望や意向をくみ取り、内容によっては職員間で話し合い、家族に対応をお願いする場合もある。	定期的なアセスメントを実施し、支援ニーズを見直しているほか、年1回実施している利用者アンケートや日々の会話の中から、一人一人の利用者の思いや意向を把握している。利用者からは、外出、食べ物、飲み物、お手伝いや趣味、ゲームなどについての要望があり、献立に取り入れたり、家族に来所してもらったりして、意向にそった支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴等の質問事項に記入の上提出をお願いしている。必要時には入居前の担当ケアマネや地域包括支援センターから情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りの他、バイタル測定による身体状況の把握、専用の連絡ノートに通院時の医師からの指示・助言や処方された薬等必ず記入し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員で入所者の担当を決め、3か月ごとに本人の聞き取りや身体・心理・暮らしの変化等の情報や意見を得てケアプランを作成し、作成後は供覧している。	モニタリングは、3か月ごとに居室担当者がモニタリングチェック表で実施状況を確認している。ケアマネージャーがそのモニタリング内容の評価を行い、家族の意向も聴きながら、医師からの指示があった際には、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに記入する他、専用のノートに連絡事項・家族からの情報等記入、また認知症状等変化があった場合にも詳細記録、職員で情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町外の通院や介護シューズ等の買い物代行など、家族ができないところを支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響により、面会や行事への家族の参加が制限されているが、少人数の招待や感染対策を行い、柔軟に対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を町外であつても受診している。状態変化があつた場合は、受診結果を家族に報告している。	多くの利用者が入居前からのかかりつけ医を受診している。受診の際の同行は、基本として家族対応しているが、職員が同行することの方が多量状況にある。家族が同行する際には、バイタルチェック表等を交付するほか、受診後は家族から受診結果を聞き取っており、また、職員が同行した際にも、結果を家族へ報告した上で、利用者個人ごとの記録を作成している。新型コロナウイルスワクチンの接種は、事業所の協力医が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐はないため、かかりつけ医からの助言や指示を受けている。また、内容によっては定期通院時に看護師から情報を得る場合もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現在のところ、入院した入居者はなく、入院時には、入院時情報提供書を作成し提出し支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化や終末期の在り方について、家族の考えを聞いている。病院・家族・施設の実情を踏まえたうえで話し合い、治療を行っている。	契約時に、重度化した場合の対応について説明し、看取りは行わないこと了解を得ている。これまで当事業所での看取りはないが、同じ法人が経営している他の事業所での看取り経験がある職員がいるほか、職員を看取り研修に参加させ、知識や技術の修得に努めている。重度化した場合は、かかりつけ医の指示を受けて、改めて家族と相談し、対応することとしている。	

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染防止対策の関係もあり、消防職員招聘にて心肺蘇生法・事故発生時の研修会は行えなかった。施設内で手順を用いて、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年10月消防計画の確認を行っている。あらゆる災害を想定した訓練や避難手段の検討・再確認を行っている。	土砂災害や火災を想定して防災訓練や避難訓練を実施している。防災訓練には、事業所の地主やアパートの住民の参加支援があった。災害の発生に備えて、食糧を2週間分準備し、ウォーターサーバーや自家発電機も備えている。前回の外部評価で期待されていた、夜間想定の実践的な避難訓練については、目標達成計画を立て、夜間想定訓練を9月の夕刻に実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴を把握し、一人ひとりの人格・性格を尊重し、方言を用いて声がけしているが、なれ合いにならないよう、職員間で注意しあい、プライバシーに配慮している。	職員は利用者を年長者として敬い、名前は「さん」付けで呼んでいる。入居前の職業などの生活歴を把握するとともに、利用者の気持ちに配慮して、親しみの中でも礼を失しないよう十分注意している。排泄時の声掛け、入浴時のカーテンの使用、一人入浴など、プライバシーを確保した対応をしている。事業所通信紙への利用者の顔写真の掲載は、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望等を引き出し、自己決定が難しい方には、選択肢を工夫し選択や同意を得られる様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れは大体決まっているが、一人ひとりの希望やペースを大切に安心して過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容に加え、着替えを選んだりしている。また、行きつけの理容室、好みに合わせた理美容室に来て頂く等利用できるよう支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の準備や片付けなど、出来る限り一緒にやっている。また、旬の食材・行事食の取入れを行い、楽しんで食事が出来る様支援している。	朝食と夕食は、外部業者からの配膳食を職員が温めて提供している。昼食は、職員が利用者の好みを入れながら献立を作成し、利用者の手伝いを得て調理している。家族からの野菜、果物の差し入れもある。盛り付けは、大皿でなく小鉢で行ない、楽しく食事できるよう工夫している。誕生日会や季節の行事食には、利用者の要望を聞き、カレー、麺類、寿司、ひつつみ、ケーキなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態を一人ひとりの状態に合わせて調整している。また、食器の工夫を行い、食事や水分共にバランスよく摂取して頂ける様対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝時の口腔ケアを行っている。自力で行えない方には、一部介助で対応し支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、促しや早目のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄・失敗しない支援を行っている。	トイレでの排泄を可能とするよう、一人ごとの排泄パターンを把握し、様子を見てトイレに誘導している。失禁した場合は、利用者の心情に配慮し、さりげなく対応している。オムツ利用者はおらず、布パンツの利用者2名、リハビリパンツと夜間パットの併用者7名となっている。夜間は7名がポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳の提供・運動を行っている。水分摂取量にも気を付け、野菜を多く取り入れた食事の提供を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴できるよう支援している。行事・通院等で変更になる事もあるが、一人ひとりに合った、入浴順番や時間、介助方法に配慮し支援している。	週に2、3回午後に入浴している。長湯が好きな利用者、湿疹のある利用者などの希望や持病の状態により時間や順番を変えている。介助は、背中流し、洗髪、見守りなど、利用者の状況に応じて行ない、昔話などをしながらゆったりと入浴している。また、菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じるような工夫もしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール・居室は自由に行き来できるようにしている。一人ひとりに応じて、居室で休んだり出来る様支援したり、室温・寝具等へも配慮し気持ち良く眠れる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や一人ひとりの処方内容をファイルに綴り、職員確認出来る様にしている。薬・症状の変化の申し送り・観察を行い、通院時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事の準備や野菜を育てたり、新聞の購読など楽しみや得意とする活動を提供するように努め、楽しみごと気分転換への支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、思うように戸外へ出かける事はできなかった。休息状況により、家族との外出・行事での外出機会を設けている。	コロナ禍により外出は控えているが、天気の良い日には、事業所の周辺を散歩したり、デッキで外気浴をしたり、プランターでミニトマト、ジャガイモを栽培したりして、外気に触れる機会を作っている。また、近隣の山や神社などへドライブし、春には梅、秋には紅葉を楽しんでいる。利用者の希望で、自宅や配偶者が入所している施設を訪問している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の中でもお金を所有している方がいるが、施設・家族も了承している。孫のお小遣い・プレゼント購入など希望に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族から荷物が届いた際には電話を掛けたり、知人から手紙が届いた際には返事を出したりとやり取りを行っている。また、入所者の希望に沿い、いつでも電話可能としている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春夏秋冬に合わせた装飾作りを手作りしたりと工夫している。また、室温や湿度のチェック、エアコン・加湿器での調節をしている。	共用ホールは、天窓と大型の引き戸で明かりが入り、クリーム色の壁には、利用者と職員が一緒に作成した、コイノボリ、花火、もみの木などの季節の作品が飾れている。共用ホールには、食事テーブル、ソファ、畳の小上がりがあり、利用者は自分の落ち着く場所で、テレビ、ゲームなどでくつろいでいる。温度や湿度はエアコンや加湿器で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席・ソファ席と自由に座れたり、席を移動して会話や作業をする事もある。折り合いが合わない方々もおおり、トラブルにならないよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者の使い慣れたもの、馴染みの物など持ち込み可能となっている。家族の写真、TVなど本人制作の飾り物で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	居室には、ベッド、椅子、クローゼット、筆筒、カーテン、ナースコールが備え付けられている。利用者は、テレビ、家族写真、カレンダーなどを持ち込んでいる。ベッドの配置は、利用者の意向の位置に行なっており、温度はエアコンで適切に管理されていて、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等の照明に気を付け、手すりを配置したり、各出入口等わかりやすく表示し、安全な環境作りに努めている。		